

〈目次〉

【刊行によせて】地域再生の哲学を探して（近藤暁夫）	………	3
シンポジウム開催概要	………	8
登壇者プロフィール	………	9

第一章 地域再生の現場で、いま何が起きているか

― 登壇者の最新のご活動・お考え ―

………

13

（木村氏） ・ 豊橋市のある人と会わなかったら、たぶん、モクモクはなかったのではないか

・ いろいろな人たちと一緒に、もう一度「モクモク」の原点に回帰する

・ 「地域に温泉が欲しい」、四億円の借金

（横石氏） ・ 今までやってきたやり方が今の時代に合っているのか、私は合わないと思っている

・ つながっていくことがとても大事な社会に、つながり社会をどのようにつくるのか

・ 組織も地域も、やる自分が自分事として返ってくる仕組みをつくるのが大事

・ SNSが出てきたことによって社会が一変、今時代に大事なものは「時間の使い方」

・ 田んぼでは生計が成り立たない、だから後継者がいない

（岩崎氏） ・ 過疎地域の人々と一緒に笑いたい、そのためにはどうしたらいいのか

第二章 『夢の種を蒔く』とは

― 地域・会社を、地域再生人を、突き動かすものは何か ―

- ・ 地域で、どのようにしたら人は動くのか
- ・ 「あなたは大切な存在なんですよ」という自覚をもつていただく、誇りの回復
- ・ 会社は地域のもの
- ・ 「あなたがいるからだ」ということが、地域づくりにも商売にもすぐく大事なこと
- ・ 「考え方を売る」、その価値や思いを知ってもらう
- ・ 「個」の社会は小さくていい、小さくて光ることが大切
- ・ みんなが意見を言い出す、夢を創造し始める
- ・ 事業は最初の『スキーム』が大切、それで生計が成り立つかどうかを見極める
- ・ 協力的でない人たちを動かす手法、「事業」で見えるのか「地域」で見えるのか
- ・ それぞれ人間には「引糸」がある、そのための『仕組みをつくる』
- ・ 人材育成、その人のモチベーションが上がるような手法を用いて「夢を共有」する

【解説】 DNAに『地域ビジネスの二重らせん構造』を持つ人たち（内浦有美）……………